

学校・教育機関の皆さまへ

被災地（宮城県 南三陸町）で学ぶ

未来につながる種に出会える

探究学習プログラムのご紹介

地域を素材に、社会課題を自分ごととして考える。

宮城・南三陸だからこそできる

探究型教育プログラムです。



南三陸町観光協会
MINAMISANRIKU
311 Memorial

南三陸
311メモリアル
MINAMISANRIKU
311 Memorial

An aerial photograph of a coastal town, likely in Japan, featuring a large bay, a prominent bridge, and surrounding green hills. The image is overlaid with a semi-transparent teal filter. The text is positioned on the left side of the image.

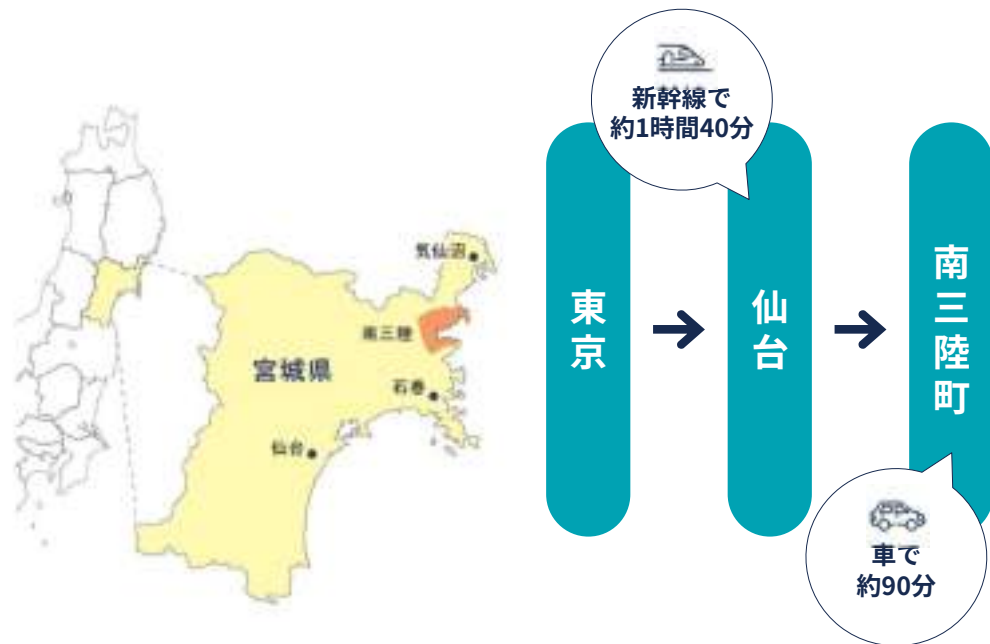
はじめに

南三陸町について

南三陸町について

宮城県北東部に位置する南三陸町は、人口約11,000人の沿岸の町です。
 牡蠣・ホタテ・ワカメ・ホヤなど、豊かな海の恵みを活かした養殖漁業が地域の暮らしと産業を支えています。

南三陸町の場所・アクセス



南三陸町の年間カレンダー

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な 旬の食材	牡蠣 マダコ 鴨 ワカメ					ホヤ						マダコ
季節の 行事		神前崎 日の出 海軍から 帰れる!			田栗山 つつし の日!		サンオーレ モてはま 海水浴場 open!			神前崎 日の出 飛来 海軍から 帰れる!		
平均気温 °C	5℃ -3℃	5℃ -3℃	8℃ 0℃	14℃ 5℃	19℃ 10℃	22℃ 15℃	25℃ 19℃	27℃ 21℃	24℃ 16℃	19℃ 10℃	13℃ 5℃	7℃ -1℃

東日本大震災について

南三陸町は、過去の津波被害を教訓に防災訓練を重ね「災害に強いまちづくり」に取り組んできました。しかしながら先の東日本大震災では、想定をはるかに超える規模の津波により甚大な被害を受けました。



南三陸町の被害（震災当時の人口：17,666人）

震度6弱の揺れと最大20メートル超の津波が町の中心部を襲い、住宅の約70パーセントがほぼ全壊。

町役場をはじめ、警察署、消防署、公立病院も大きな被害を受け、なかでも防災対策庁舎においては、最後まで避難を呼びかけていた職員含む多くの犠牲がありました。

死者 **620** 人

行方不明 **211** 人

全壊家屋 **3143** 戸

半壊家屋 **178** 戸



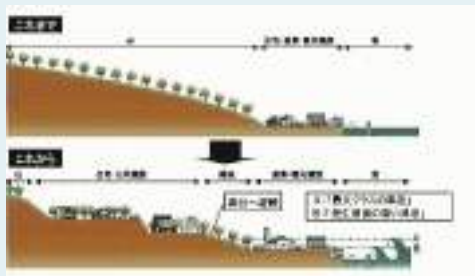
南三陸町の創造的復興：これまでの取り組み

震災を経験した南三陸町では、地域資源と人のつながりの大切さを改めて見つめ直しました。町の将来像として「森・里・海・ひと・いのちめぐるまち」を掲げ、命を守り、自然と共に生きるまちづくりを進めてきました。

東日本大震災による甚大な被害からの復旧・復興の先に目指す将来像

「森 里 海 ひと いのちめぐるまち 南三陸」 (南三陸町第二次総合計画より)

”いのちを失わない“まちづくり



働く場所と住む場所を分ける「職住分離型」のまちづくりを採用し、高台への移転を進めるなど、命を守るための構造的な改革を行いました。

「なりわいの場は低地でも、住まいは高台に」を基本原則とし、町全体で歴史的な決断を実行しました。

“自然と共生する”まちづくり



山と海の恵みを未来につなげるため、環境に配慮した持続可能な取組を進めています。

国際的な森林管理基準「FSC認証」と、日本初のASC認証（海）を同時に取得しているのは、全国でも南三陸町だけです（2023年8月時点）。

- 山：FSC認証を取得
- 海：一部地域の牡蠣養殖場でASC認証を取得
- 志津川湾：ほぼ全域がラムサール条約登録湿地に

地域資源を活用した“賑わい創出”



農業や水産業を土台に、町内の未活用資源を生かした新たな産業づくりを進めています。

例えば、休耕地を活用したブドウ栽培やワインづくりは、「森・里・海・ひと」の循環を体現する取組の一例です。

また、「みちのく潮風トレイル」では、震災の記憶と復興の息吹に触れながら、地域文化と自然の魅力を体感できます。

私たちについて



南三陸町観光協会

2009年設立、地域の観光事業を担うだけでなく「観光を手段にした地域づくり」の中核を担う。

東日本大震災後は地域に賑わいを取り戻すための福興市の開催や震災の教訓を伝える語り部ガイドによる学びのプログラムの実施など他地域に先駆けて復興ツーリズムに取り組んできました。

私たちのミッション

地域・ひと・時を豊かにするコトづくり

南三陸に関わる「地域」「ひと」「時」がより豊かで幸せなものになるような体験を企画し、届けています。

命を育む自然、歴史や文化が息づく「地域」。
そこに暮らす人、訪れる人、活動する人といった多様な「ひと」。
そして、日々移ろいゆく「時」のなかにあるかけがえのない瞬間。

それぞれが持つ願いや課題に耳を傾け、まだ知られていない価値に光をあて、交流のきっかけとなる体験を創り出します。

関わるたびに、こころが満たされ、つながりが深まっていく。

そんな“豊かさの循環”を目指しています。

南三陸町観光協会のビジョンマップ



“

みんなで作る 南三陸町の6つの未来風景

私たちにこの町に生み出したい 6つの未来風景があります。

森里海に抱かれた南三陸で、地域に暮らす人と町を訪れる人が、ともに学び・楽しみ・リスペクトし合う未来を描いています。

地域の生業や文化、自然の恵みを慈しみ、互いの想いや発見が交わることで、新しい価値と物語が生まれます。

そのつながりは一度きりの出会いを超え、次の世代へと続く、豊かで持続可能な南三陸の未来を紡いでいきます。

南三陸町観光協会はこの未来風景の実現に向けて、観光交流事業に取り組んでいます。

“

被災地（宮城県 南三陸町）で学ぶ

未来につながる種に出会える 探究学習プログラムのご紹介





プログラムに込めた思い
被災地=悲しみの場所ではなく「未来をつくる教育の場」へ

未来社会を担う子どもたちが 考え・行動するためのきっかけ（種） それが南三陸にはあります

東日本大震災から10年以上が経ちました。

震災の経験は、単なる“悲しみ”や“記憶”として語り継ぐだけのものではありません。

大きな被害を受けながらも、地域一丸となって再生に挑み続けてきた南三陸。
森・里・海の恵みに支えられた暮らしを見直しながら、
「私たちは何を守り、どう行動していくのか」
——問いを持ち続け、未来へつなげる挑戦が今も続いています。

この南三陸での学びは、生徒たちにとって「視野を広げる」「興味の幅を広げる」
「将来を考える」きっかけとなるはずです。

教育関係者の皆様には、南三陸でしか得られない“生きた教材”としてぜひ授業や
研修にご活用いただければ幸いです。

南三陸だからこそ実現できる探究学習

南三陸は、震災の記憶とレジリエンス、森と海の恵み、未来を切り拓く実践にふれられる“学びのフィールド”です。ここでの探究学習で得た“気づき”や“問い”は、生徒の成長や将来の夢の実現へとつながっていきます。

学習フィールドとしての 南三陸町の特徴

震災

震災と復興を経験した町

- 東日本大震災で甚大な被害を受けながらも、町ぐるみで再生に挑戦してきた歴史を持つ
- 人々との出会いを通じて、困難を乗り越える「レジリエンス（逆境を力に変える力）」を実感できる

環境

森と海がそろそろサステナブルなフィールド

- 世界的に認証されたFSCの森とASCの海が共存する、日本でも稀有な地域
- 森・海・人のつながりを基盤に、持続可能な地域づくりを進めている

挑戦

未来を見据え挑戦を続ける町

- 復興にとどまらず、バイオガス施設や循環型資源利用など、持続可能なモデル都市を目指している
- 教育旅行の受け入れにも積極的に取り組み、国内外からも高い評価を得ている

南三陸で広がる多彩な探究テーマ

南三陸には「震災復興や防災」「森と海の環境課題」「産業再生や地域の挑戦」など実体験と対話を通じて探究できる多彩な学びのテーマがあります。

防災・減災

被災地の体験から考える 未来に備える防災のあり方

南三陸を舞台に、次に起こるかもしれない災害への備えを考え命を守る判断や、未来の社会のあり方について主体的に学びます。



環境

環境問題を“海”から見つめる 海水温上昇と海洋ゴミ問題

海と深く関わる南三陸で海洋環境の課題に触れながら自然と人とのつながりを見つめ直し、持続可能な社会の姿を考えます。



サステナビリティ

産業再生

ゼロからの復活と、持続可能な仕組み 養殖牡蠣の1/3革命

津波で養殖いかだを失った町の挑戦を通じて、単なる復旧ではなく、持続可能な地域再生の仕組みから未来社会を学びます。



」をテーマ例とした

学習プログラムの進め方のご紹介



探究学習プログラム例 : 海の世界 | 海と人との関係を実感し考える、未来の海の世界。

「海が人に与える影響」を知り、「人が海に与える影響」を実感し、問題認識を“自分の行動と社会形成”へとつなげる環境探究プログラムです。

[得られる気づき例]



「海と人との関わりはこんなにも強いのか」と認識する。

「その海に、人は大きな負の影響を与えている」と気づく。

「この問題に真剣に取り組まないはずい」と実感する。

[育む力]

海洋リテラシー

- 海が人に与える影響の理解
- 人が海に与える影響の理解

社会を認識する力

- 社会に現れている問題に気づく
- その問題と自分は無関係ではないことに気づく

課題に取り組む力

- 解決への糸口を自分なりに考える
- 実現するための社会システムを考える

海の世界変化をテーマに、社会課題を解決するということを探究的に深めていきます。

探究学習の流れ | 「3つのステップ」で未来に繋がる探究を

探究学習は「事前→現地→事後学習(振り返り)」の3ステップで進めます。
生徒が交流と対話を通じて問いを持ち、課題を見つけ、行動へつなげる学びです。

- [目安：生徒30人+引率2~3人]
- ・3泊4日 @75,000円~
 - ・料金に含まれないもの
 - 各地~仙台間の移動費
 - 旅行保険代
 - 南三陸での個人的諸経費

オンライン

事前学習

津波を含む海と人との関係を学び、海に起こる問題を認識する。



自分ごととしての関心を深め、現地で探究したいテーマや問いを設定します。

南三陸

南三陸町で現地学習

体験を通して問題を実感し、解決への議論をする。



南三陸町の人々との対話や体験を通じて、リアルな課題や工夫を知る

整理・分析
プレゼンで発表する



得られた情報や気づきを整理し、仮説や考察をまとめて発表します。

オンライン

事後学習

自分の行動につなげる



現地学習で得た学びをもとに行動計画を立て、実践を通じて社会に還元します。

問いを立て、現地で学び、行動へつなげる探究型プログラム。社会とつながる学びを目指します。

事前学習 | 流れ

探究学習で大切なのは、「ただ見に行く」ではなく、生徒が自分なりのテーマや問い、答えを持って現場に向かうことです。そのため、事前学習では次のステップで準備を進めます。

人数限定、選択制研修プラン（15～30人程度）

オンライン

事前学習（現地学習の約1ヶ月前）

オリエンテーション

- プログラムの流れと日程共有
- 目的と概要の説明
- グループ分け

南三陸と海を知るレクチャー

- 南三陸の紹介
(東日本大震災と被害の状況含む)
- 津波を含めた、海についての基礎知識
- 町と海との関係を知る

探究テーマを決める

- 様々な切り口の探究テーマ例を提示
- 生徒は自分の関心に基づいてテーマを選ぶ



問いと仮説を立てる

- 問いを深めるために“なぜ？”を重ねて考える
- 仮説は自分の予想を言葉にする

現地学習への準備

- 基礎情報を調べる
- フィールドワークで聞きたい質問を用意
- インタビュー・記録・写真などの役割を決める

当協会がオンライン授業で実施（1回 / 1～1.5時間程度）

貴校にて実施

※1コマ確保いただければ十分です

南三陸町で現地学習

事前学習 | 探究テーマを決める

一言で「環境」といってもさまざまな切り口からテーマを設定できます。複数のテーマを提案し、生徒自身の興味に基づいて選んでもらいます。

[探究テーマ例]

海の温暖化

海の温暖化は起こっているの、なぜ起こるの？

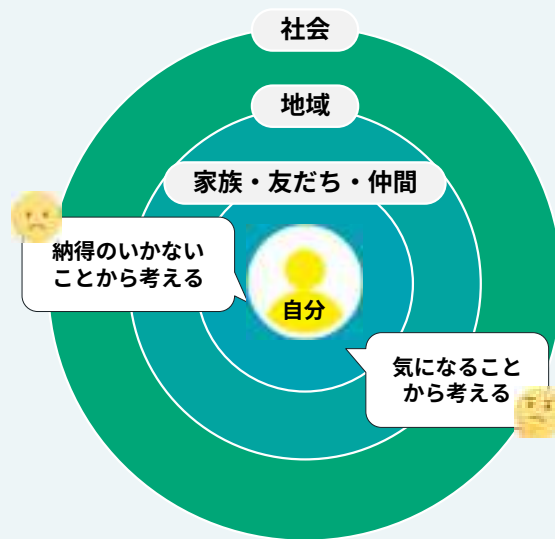
- ・ 気象災害と海の温暖化の関係
- ・ 漁業と海の温暖化の関係
- ・ 生き物たちと温暖化の関係
- ・ 温暖化を抑制するために何ができるのか？

資源変化&生物多様性と漁業

水産を中心とした海の資源変化を知る。

生物多様性の意義を知る。

- ・ 漁業、水産業へのさまざまな影響
- ・ 変化に順応していくためには？
- ・ 水産以外の海の資源とは？



海洋ゴミ

海洋ゴミの現状を知る。

- ・ 海洋ゴミは何が問題なのか？
- ・ マイクロプラスチックについて
- ・ どうして海にゴミがあるのか？
- ・ どうしたらこの問題を解決できるのか？

海と陸のつながり

海と陸にはどんなつながりがあるの？

- ・ そのつながりは健全なの？
- ・ そのつながりになっている背景は？
- ・ つながりをより良く、豊かにするためには？

テーマ決めは最も悩みやすい場面です。候補を提示し、スムーズに進められるようサポートします！

事前学習 | 現地に行く前に自分たちなりの答え・質問を考える

テーマに対して「自分たちなりの仮説」や「質問」を持って現地に向かうことで、観察や対話に目的が生まれ、“自分ごと”として学びが深まります。結果として、フィールドワークの質と主体性が大きく高まっていきます。



[探究テーマ(例)]

海の環境変化。変化する海と人との関係はようになっていけばいいのか。



1. テーマに対する「仮説（仮の答え／予想）」は？

- 人が海から離れてしまっているから？
- 海で起きていることの情報が無いから？
- 海についてよく知らないから？

2. 仮説を確かめるために、フィールドワークで何を質問すべきか？

- 「温暖化によって町にどんな問題が起こっていますか？」
- 「町としてプラスチックゴミ問題にどう取り組んでいますか？」
- 「町づくりに海の環境保全をどう取り入れましたか？」

現地で「どんな視点にアンテナを立てるべきか」を生徒自身が考えておくことが、深い学びへの第一歩になります。

現地学習

南三陸町での4日間

(標準的な日程として4日間を推奨していますが、予算やご都合に合わせてカスタマイズ可能です)

テーマに対して「導き出した答えと、それに対して明日から自分にできることは何か？」を南三陸での4日間を通じて見つけていただきます。

南三陸町での現地学習

	1日目 海を感じる・変化を知る	2日目 海に起こる問題を体感する	3日目 考えをまとめる	4日間 発表する
A M	<ul style="list-style-type: none"> 移動～南三陸町到着 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ (環境変化への適応の1事例としてプログラムを体験) 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク② (海に起こる問題の実感…クリーン活動とレクチャー) 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの成果をプレゼンテーション 参加者からの総評 振り返り
P M	<ul style="list-style-type: none"> 志津川湾を眺望する フィールドワーク① (海に起こる変化のヒアリング…漁業者・水産加工事業者など) 	<ul style="list-style-type: none"> 中間ふりかえり 問いの再整理 	<ul style="list-style-type: none"> グループでプレゼン準備 BBQで交流・決起集会 	

フィールドワーク①.②

①漁業者や海を営みにする事業者、団体へのインタビューの場を設けます。②海岸清掃をおこない、問題を実感します。



ワークショップ

変化に適応する営みのひとつの考え方を、プログラムワークショップ(「ロッキーショアを守れ」「雑魚食堂」など)を通して体感します。

現地学習 | 海を感じて、その海に起こっている変化を知ります。

南三陸町に到着したら、まず海(志津川湾)を見ます。大きく捉えて、自分の心に現れるものを感じましょう。そして、海を営みの場とする関係者に、海の変化のヒアリングを行います。

海を感じる



サンオーレそではまビーチで海にふれます。自分の中に、どんな感覚が湧き上がり、どんなことに気づくのか実感します。

海的环境変化のヒアリング



養殖を営む漁師、水産加工事業者、漁業共同組合スタッフなどに直接会い、海にどんな変化があるのか、それがそれぞれの営みにどんな影響をもたらしているのか、その変化にどう対応しているのかを聞き取ります。

現地学習 | フィールドワークで情報を収集する。ワークショップでヒントを得る。

設定した探究テーマに沿って、南三陸の企業・機関・地域の関係者にインタビューを行います。地域の課題や取り組みを直接聞くことで、新たな視点を得ることができます。また問題を解決する糸口を、ワークショップを通して探ります。



[フィールドワークでインタビューできる人々の例]

漁業者

- 海を営みの場とする人

水産加工事業者

- 海からの恵みに価値を加える人

漁業協同組合のスタッフ

- 海で営む人をサポートする機関

行政関係者

- 社会の仕組みを作る人

[ワークショップの内容]

「燃えるロッキーショアを守れ！」

- 海の変化によって起こる海藻藻場の減少”磯焼け”。自ら漁業者になって、これにどう対応していくかを考えるテーブルゲームプログラム。

「雑魚食堂」

- 価値がつかず雑魚と呼ばれる使われない魚。これを活用した実感プログラムです。その過程で、これらの活かし方を模索します。

インタビューを通じて生徒はテーマを深掘り、自分の興味や将来の目標についても考えを深めていきます。

現地学習 | 最終日のプレゼンテーション

現地での対話や観察を通じて深めた学びの成果を、仮説への答えや今後の行動計画としてまとめ、ヒアリング協力者など南三陸の方々に向けて発表します。



- ヒアリング協力者など、町の方々に向けて発表
 - ・ 事前に立てた仮説
 - ・ 現地で得た気づき・答え
 - ・ これからの行動計画
- 参加者からの総評とアドバイス



学びの成果を言語化し、人に伝える経験が、次の行動につながります。

事後学習 | 計画の実行・発表

現地学習で得た学びをプレゼンで終わらせず、"行動"へとつなげて社会に還元します。
各自が立てた行動計画をもとに実践し、その成果を南三陸の関係者に発表、一緒に振り返ります。

事後学習 (現地学習の1~2月後) ※ご相談の上決定

活動計画の実行

校内での発表・共有にとどまらず、実際の行動へと移していきます。

たとえば、募金活動の企画、地域との連携、SNSを活用した情報発信など、生徒自身が「社会にどう働きかけるか」を考え、実践につなげることで、プレゼンで終わらない“行動する探究”を目指します。



貴校にて実施

活動結果の報告会

探究の成果を伝える場として、生徒による報告会を実施します。南三陸側もオンラインで参加し、地域の方々からのフィードバックや感想を受ける機会となります。

単なる発表にとどまらず、現地との対話や相互理解を深める“交流の場”として展開します。



オンライン授業で実施 (1回 / 1~1.5時間程度)

現地訪問が難しい場合は、「出前授業」や「オンライン授業」も可能です

南三陸への訪問が難しい場合もご安心ください。

語り部や専門講師による授業を、オンラインや訪問形式でも実施できます。お気軽にご相談ください。



[授業内容例：60～90分程度]

テーマ「防災」

東日本大震災の経験をもとにした

「内面からの防災教育の重要性」

「想定外を超える！今知っておくべき防災の真実」

テーマ「環境」

南三陸の事例をもとにした

「海を見ることは社会を見つめること」

「ひとと海の繋がり～海洋ごみと未来の暮らし～」

[料金について]

- ・ 講師料金：50,000円～/1講師（税別）
- ・ 交通費：実費相当分をご負担いただきます。

体験事例 | 武蔵高等学校中学校の夏季研修（2025年8月実施）

SDGsや地域探究をテーマに、「地域を持続可能にするために自分たちに何ができるか？」を考える2泊3日の募集型ツアー。発展的復興や持続可能な一次産業に触れ、挑戦する南三陸の大人との対話を通じて、未来社会のあり方を考えました。



南三陸町の探究学習実践事例

武蔵高等学校中学校

南三陸をはじめて訪れた20名の中学生高校生。

防災や現地視察、関係者との対話を通じて、持続可能な社会とは何かを考えました。最終日には「南三陸をどう伝えるか」をテーマに、グループで議論しプレゼンを実施。言語化を通じて価値を見つめ直しました。

生徒さんたちの感想

- 地方や一次産業の危機を知るとともに、様々なチャレンジも知った。日本中にこのような取り組みを広めていけば未来も明るいのではないかな。
- 学校の授業では学べないことを現場で実感できた。魅力的な大人たちと出会い、自分もそうなりたと思うようになった。
- 震災という大変な出来事を経験しても、皆で立ち向かって姿に、勇気をもらった。前向きに頑張っていきたい。

先生は「広い視野で行動すること」「日常とは異なる体験を重ねること」の大切さを生徒に伝えていました。

探究学習をまるごと支える、南三陸のサポート体制

「テーマが決まらない」「進行に不安がある」そんなお悩みにも、多くの学校と向き合ってきた経験があります。南三陸では、企画・現地・事後支援まで一貫してサポートできる体制でお待ちしております。

セミオーダー型で プランをご提案



学年や教科、学びたいテーマに応じて、セミオーダー形式で最適なプランをご提案。事前ヒアリングをもとに、先生と一緒に行程を組み立てます。

専門コーディネーター が帯同サポート



各分野に詳しい専門コーディネーターが現地に同行。生徒が学びの“種”を見つけ、主体的に考え、対話するプロセスを後押しします。

事前学習～事後学習 までサポート



事前・事後学習ではオンライン対応や講師派遣も可能。レクチャーや問いの提示、振り返りの発表支援など、学びの前後も丁寧にサポートします。

豊富な教育旅行 の受け入れ実績



国内外あわせて年間140校以上を受け入れ。震災学習や一次産業体験を中心に、修学旅行や教育旅行など多様な地域・学年に対応しています。

ご相談から実施までの流れ

人数・ご予算・実施時期などの条件やご要望を丁寧にお伺いし、貴校に最適なプランをご提案いたします。ご準備から当日の運営まで、一貫して安心のサポート体制で対応いたします。



本プログラム以外にも様々な体験プログラムをご用意しています

SDGs アクティブラーニング型プログラム

- > 環境学習～漁船にて養殖場見学付き～
- > 海と食の未来を守るには？
- > ゴミから持続可能な未来を考える
- > 持続可能な社会に必要な山林と林業

食体験プログラム

- > 南三陸BBQ体験
- > 海藻生ふりかけ体験

自然・環境・文化体験プログラム

- > 海から学ぶプログラム～漁業体験～
- > 山から学ぶプログラム
- > 化石発掘体験
- > 南三陸まなびクエスト

民泊体験・民宿・交流型宿泊施設プラン

- > 民宿分宿プラン（1泊2日）
- > 交流型宿泊施設プラン（1泊2日）
- > ホームビジット体験（日帰り）

ものづくり体験プログラム

- > 貯金ダコ・タコロン絵付け体験
- > 杉枝スプーン・フォーク作り体験
- > ミニモアイ像色塗り体験
- > 藍染め体験



目的・ご要望・ご予算にあわせて最適な組み合わせ
をご提案します。お気軽にご相談ください！

受賞歴 | 第8回ジャパン・ツーリズム・アワード 特別賞受賞

南三陸町観光協会の「未来を育む学びのツーリズム事業」が、第8回ジャパン・ツーリズム・アワードにて UNTourism特別賞を受賞しました。



受賞取組名 「未来を育む学びのツーリズム事業」

地域と一体となった教育旅行受け入れの体制整備と誘致活動

一次産業従事者、震災の語り部ガイド、宿泊施設やホームステイの受け皿となる一般家庭、行政や産業団体などと連携し、未来の日本や世界を担う学生に対し、「学びのフィールド」として地域コンテンツを活かした教育旅行を展開

[未来を育む学び旅](https://www.m-kankou.jp/educational-travel/) <https://www.m-kankou.jp/educational-travel/>



受賞理由（主催者発表）

震災直後から長い期間にわたり、被災地域が主体となり公益事業と収益事業の両輪で、持続できる方法で取組を続けている所を評価した。実際に被災地に訪れて体感することでより深く学ぶことができ、旅行者と共に持続的な観光地域づくりを行ない、震災を風化させず、防災・減災について考える機会を提供している点も素晴らしい。

[プレスリリース](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000084.000032102.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000084.000032102.html>

一つひとつの出会いや体験が 未来の命を守る力になると信じています。

まずはご相談から、お気軽にお問合せください！



<https://www.m-kankou.jp/educational-travel/>

お問い合わせはこちらから
お問い合わせフォーム

本プログラムに関するお問い合わせ

一般社団法人 南三陸町観光協会 【旅行業登録番号：宮城県知事登録第3-330号】

〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200-1



TEL：0226-47-2550 MAIL：post@m-kankou.jp ※受付時間 9:00～18:00（元日のみ休業）

南三陸観光ポータルサイト <https://www.m-kankou.jp/>

